

巻頭言

最近中国で年配の方たちは健康食品を高額で買わされている話題が多くあり、「体に良い」「買
い得だ」など、実物以上の効能などを信じ込んで金を惜しまずにそれを購入する年配者と、「騙さ
れているだ」と忠告する周りにいる者の風景である。売る側は明白な意図で購入者を騙すとは断定
できないが、「健康を望みたい」「得する」という消費者心理を利用しているのは確かである。

話を日本に戻させよう。似たようなことだが、時々健康食品についてのテレビコマーシャルによ
る宣伝が目に入る。ある健康食品はそのうたい文句として「生きている菌が多く入っている」とな
る。最初に見たときその菌の数が「数億」だったが、後に20億とか40億などまで、ますます増え
ていく。造る側は嘘をしていない、関心を持っているものはその「億」単位に惹かれて購入意識は
高くなっていくと見られる。

ところで2億でも、20億40億でも人間の腸内に生息していると言われる腸内菌の数100兆～1000
兆と比べると、微々たるものであると分かる。つまり、これらの数値さえ分かればその健康食品が
どれだけの効き目があるのか分かるはずであろう。

次期学習指導要領では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性
等」の三つの柱で目標や内容を再整理し、特にこの三つの柱のバランスが重要だと強調されている。
上記挙げた健康食品のことを考えても、確かにどれか一つだけではうまくいかないと思う。数値や
宣伝文句などを鵜呑みせず、しっかりと吟味したり、調べたり、研究したりすることは、自らに
とってより正しい判断が得られることになる。

今年度は栗原先生からのバドタッチを受けて本学会の会長を務めることになった。諸先輩たち
が蓄積された本学会のよき伝統を守っていき、事務局からの支えをもとに、年度中に予定している
諸行事をしっかりと全うしていく所存である。東北に六県があり数学教育に携わっている者が大勢
いる。本学会の活動は六県で展開しより多くの方々が参加する夢を見ている。一、二年で完全に実
現できないかもしれないが、その方向へ確実に一歩ずつ邁進していくように努めてまいりたい。

昨年度、本学会に大きな損失があった。元会長の森川幾太郎先生がお亡くなりました。ここに慎
んでお悔やみを申し上げます。会の更なる繁栄と発展をもって森川先生にご報告を致します。

杜 威（秋田大学教育文化学部）